

申請受付日

指導部で記入 →

【様式 3 - 1】

(所属(市費)コード 701570)

## 大阪市立榎本小学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算【加算配付】配付申請書

年度目標	達成状況
<p><b>【道徳心・社会性の育成】</b></p> <p>① 本年度の「学校アンケート」の「友だちとなかよくできている」「私にはいいところがある」等の項目について、「よくあてはまる」と回答する児童の割合を、昨年度より 5 ポイント以上増加させる。(カリキュラム改革・サポート改革)</p> <p>② 本年度の本校の「いじめアンケート」の「仲間はずれにされる」「嫌なことをいわれる」の項目について、「0」を目指す。(カリキュラム改革・サポート改革)</p> <p>③ 生活指導上の対応件数を、「毎日 3 件程度」に減らすとともに、保健室対応件数を、「毎日 20 件程度」に減らす。(カリキュラム改革・サポート改革)</p> <p>④ 児童・保護者・地域が「えのもとの森」を通して、東北地方(陸前高田)と絆を深めることにより、社会貢献の精神(命を思う心情)を育成する。(カリキュラム改革・サポート改革)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【保護者・地域との連携】</p> <p>「えのもとの森プロジェクトチーム」による「えの森から発信する、心と校内のオアシス化」(第 2 弾)を継続発展し、活動を充実させる。(カリキュラム・サポート改革)</p> <p>指標 月に 1 回、「プロジェクトチーム」を開き、PDCA サイクルで計画を進める。</p>	
26 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>地域が支援している陸前高田へ「花と心の交流」として花や音楽を届ける活動を通して、地域関係諸機関とも連携をさらに深めることができた。えのもとの森を生かした活動を通して、社会性を育てるとともに自尊感情も少しずつ高まりを見せてきている。</p>	
27 年度への改善点	
<p>これまでの取り組みの結果「いじめ」はかなり減る傾向にある。しかし、本校の目標である「0」にはなっていない。今後さらに早期対策・早期対応が取れる体制作りを進めたい。自尊感情について高まりは感じられるが、まだまだ低く大きな課題であることに変わりはない。これまでの取り組みを再検討しながら、新たな取り組みにも積極的に取り組む必要がある。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度(今後)への改善点	

◆加算配付申請内容に対応する項目を記載※運営に関する計画再掲

大阪市立榎本小学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算【加算配付】配付申請書

配付申請額 2,500,000 円

## ◆費目別予算(※円単位)

8-1 報償金	11-1 消耗品費	11-4 印刷製本費	11-6 建物修繕料	12-1 通信運搬費	12-4 手数料	12-7 損害保険料
41,000	1,693,000	216,000		30,000		

13 委託料	14-1 使用料	14-2 船車賃借料	18-2 校用器具費	18-3 図書購入費	合計
520,000					2,500,000

## ◆取組内容・予算内訳

取組内容①【保護者・地域との連携】		
「えの森プロジェクトチーム」による「えの森から発信する、心と校内のオアシス化」(第2弾)を継続発展し、活動を充実させる。(カリキュラム・サポート改革)		
予算内訳		
予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
8-1	えの森観察・ネイチャーゲーム指導 講師招聘 2名	28,100
8-1	稲作・わら細工指導 講師招聘 1名	12,900
11-1	季節の草花の種・苗、実のなる木などの苗木	450,000
11-1	プランター、培養土、肥料、散水用具、除草用農具	400,000
11-1	「えの森文庫」拡充用 自然科学・震災に関する図書	170,000
11-1	自然工作用材料・工具類(雑木、ボンド、ドライバーなど)	130,000
11-1	児童の活動用消耗品(ラミネートフィルム、ホスターカラー、作文用紙等)	220,000
11-1	淡水アクアリウム用 淡水魚、水槽、ポンプなど	93,000
11-1	コンポスト作成用 木材、レンガ、ブルーシート等材料	70,000
11-1	取組記録・資料印刷用 トナーカートリッジ、DVD-R	160,000
11-4	えのもりマップ、取組のまとめ印刷 @180×1200部	216,000
12-1	陸前高田市との交流 資料送料	14,400
12-1	6年生防災学習 あべの防災センター @120×130名	15,600
13	兵庫県立人と自然の博物館 移動博物館ゆめはく招聘	50,000
13	樹木の剪定作業 業務委託 2回	400,000
13	樹木の害虫防除 業務委託	70,000

**「えの森から発信する、心と校内のオアシス化」《第2弾》の展開****1. 「えの森PT」の充実**

2年目を迎えた「えの森PT」を、本年度から学校組織運営図（本校では校務分掌を構造化している）に位置付け、学校全体の各組織との連携を図りながら、昨年度に引き続いて「心と校内のオアシス化」《第2弾》に取り組む。

“花は心の表れ、草木は生命の体感”をキーワードにして、本年度は次の様な取組を計画している。

- ①「校内全体がえの森」との発想で、「児童が主体的に運営・管理するえの森」に向けての、スモールステップの設定。
- ②地域との連携を図り、四季を通して草花や樹木に親しみ、森に集まる昆虫とふれ合える校内教育環境の整備・充実。
- ③草花の手入れ、稲作や木の実工作などの作業・活動、昆虫の観察・飼育などを通して、命との体感の機会を多く設ける。
- ④地域から寄贈されたニッポンバラタナゴ（絶滅危惧種）の飼育管理や校内の池を活用した水生動植物の飼育栽培を充実する。

**2. 「レジリエンス」と「生き抜く力」**

昨年、2回（1回目は下見、2回目は花の贈呈式）陸前高田へ足を運び、可能な限り多くの方々（学校・行政関係者、地域の方、報道関係者等）から、今の心情を伺った。共通したのは、「自力で復興するまで忘れないでほしい。つまり、支援ではなく応援を欲している」である。現在、復興支援のキーワードとして、レジリエンス（復活力、回復力）という概念が注目されている。被害を受けた人が自力で立ち上がるまで応援することである。真の応援は、物より心であり、心の応援は持続性があるとの考え方に立脚している。

本校の教育目標は「生き抜く力の育成」である。「学力・体力・心の育成」は、児童が将来遭遇するであろう試練・困難に打ち克つ（乗り越える）ためにあると、捉えている。子どもたちの長い長い人生において、自分の力で生き抜いていく力の育成を目指している。

陸前高田へ支援（応援）と本校の教育目標とが、みごとにリンクしているといえる。

**3. “築こう！未来へのかけはしを！”（末永い「持続可能な交流」をより深く、より多角的に。）**

“持続可能”をキーワードにして、本年度は次の様な視点で交流を計画している。

- ①昨年度の取組をもとに、今津中学校（本校の進学中学校）との連携も模索しながら、10年、20年後までのスパンで、長い将来を見通して展望する。
- ②双方（榎本小学校・今津中学校と横田小学校・横田中学校）の児童・生徒の思いや願いを重ね合わせて、望ましい交流のあり方を探究する。
- ③教育（学習）活動の延長線上に、無理のない応援・交流を位置づける。

\*上記①～③の具体的な展開として、

- ・全校・各学年の教育（学習）活動の成果をCDやDVDに取り入れての交流。
- ・「花と心の交流」のさらなる充実。

四季を通じた草花の交流。生花のみならず、写真をCD・DVDに取り入れての交流。

- ・ICT機器を活用した子ども同士のリアルタイム交流。
- ・小中連携しての児童会同士、生徒会同士の活動交流。
- ・陸前高田の“震災時の状況や人の動き”を、可能な限り盛り込んで、より臨場感のある状況を想定した避難（津波）訓練実施計画を立案し、相互の実施計画案を交流。
- ・双方のHPを交流し合い、児童（生徒）・保護者・地域の交流を展開。等を計画している。